**荘内日報**
**平成 22 年 2 月 4 日付　掲載**

## 庄内柿と女子学生の感性が合体

# 新たな特産品開発へ

# 魅力伝える東京・銀座で試食会

「庄内柿」をテーマに、東京の女子学生たちが企画提案して開発された食品の試食会が30、31の2日間、東京・銀座の県アンテナショップで行われ、地方の産物と都市の感性をミックスさせた新たな特産品の魅力をアピールした。

大勢の人でにぎわった試食会

試食会は、酒田観光物産協会（齋藤成徳会長）が、国の「地方の元気再生事業」の助成を受けて取り組んでいる「夢の倶楽ブランド」開発事業の一環。産学官による同ブランド研究会を立ち上げ、昨年9月から都内の女子高生、大学生の企画提案で、庄内の農家や菓子店などが試作品を開発。11社がクッキーやせんべい、かまぼこ、リキュールなど14種を完成させた。

試食会では14種のうち、来店者1人が2種ずつを選んで食べ、その場で「好み」「好みでない」「どちらでもない」を投票してもらった。初日だけで約500人が訪れた。

試食した人に感想を聞くと、大半が「おいしい」と肯定的だったが、中には「どちらとも言えない」「おいしくない」という厳しい声もあった。また包装紙が切りにくいなど、味とは別の点でマイナスの印象を与えた商品もあった。

孫を連れた60代女性は、「おいしい。私は酒田出身なので、酒田のお菓子は大好き」、女性の1人は「チョコレートが好きなので試食品もチョコレート絡みの物に。おいしい」と話していた。

初日には、試食終了時点までに柿の味を生かした水まんじゅう「柿の雫（しずく）」、ホワイトチョコレート入り干し柿「雪柿」、干し柿入りチーズクリームを挟んだ玄米せんべい「パーシモン・サンド」など6種が品切れとなり、人気が集中した。

酒田観光物産協会の登坂俊二総支配人は「来場者が多く、好評で良かった。まだ値付けしていない段階なので、値段を付けたらどうなるかも気になる」と手応えを感じていた。

今回のアンケートの分析結果は、19日に開くブランド研究会で発表する。その後さらに質を高め、今秋には、県のアンテナショップを含め本格販売を開始の予定。

●無断転載禁止
●著作権は荘内日報に帰属します
●転載承認済

東京都市大学グループ
学校法人 五島育英会